

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.131
今号の特集から

本当の気持ちは…

奈川の人口減の問題
やっぱり……

様々な意見を受け止める

地域の人たちの話を聞いて
気づいたこと

美しい自然、伝統文化、
人とのつながり……
奈川の良さを再発見！

お年寄りの
ふるさと奈川に対する
誇り、愛情、
僕ら若者への期待……

人が少なくなって
このまま奈川の地域を
なくしたくないな。

課題に気づく

都会の人が
羨ましがらうような
奈川ならではの
良いところもあるし、
不便でも暮らせない
わけじゃないんだな。

奈川の人口減をSTOPさせるために…
理想は

若者を増やして、
お年寄りを支えていく
地域にするべきだ！

葛藤…

対立する現実の中でより良い道を探す

だけど今は、

高校生になれば
奈川を離れて、
そのまま
まちに住みたい……。

でも、奈川はなくなって
ほしくないし……。

答えの出ない難問に、もう一つの視点を

聞き取り調査で出会った、実際に奈川を愛して暮らし続ける人の言葉は、生徒たちには大きな衝撃だったそうです。自分たちの「不便」は、見方を変えればまったく問題にならないという答えは、物事には様々な見方があり、地域にはいろいろな思いがあるということのあらわれでした。

過疎・高齢化に限らず地域の問題は、簡単に解決できるものではありません。そこには様々な人の思いや、矛盾する現実があります。対立するものの見方や考え方も一つひとつ丁寧に検証し、関係する人の声を聴き、真剣に考えることが必要です。この授業の実践の中で、若林先生は繰り返し「もう一つの考え方」を生徒たちに投げかけていました。確かにここは不便だけど、それは本当だろうか？実際に見てみよう。確かに店はないけれど、それは暮らせ

ない理由になるだろうか？実際に話を聞いてみよう。人口減少は深刻な問題だけど、じゃあ君たちはどうする？

この授業で地域の未来を考えながら、彼らは地域の葛藤に向き合うプロセスを体験しました。答えを出すのは一人ひとり。時間をかけて考える必要のある課題が、彼らに残されています。

いつかその課題と
向き合ったときに、
考える材料の
一つにしてほしい……。
(若林先生)



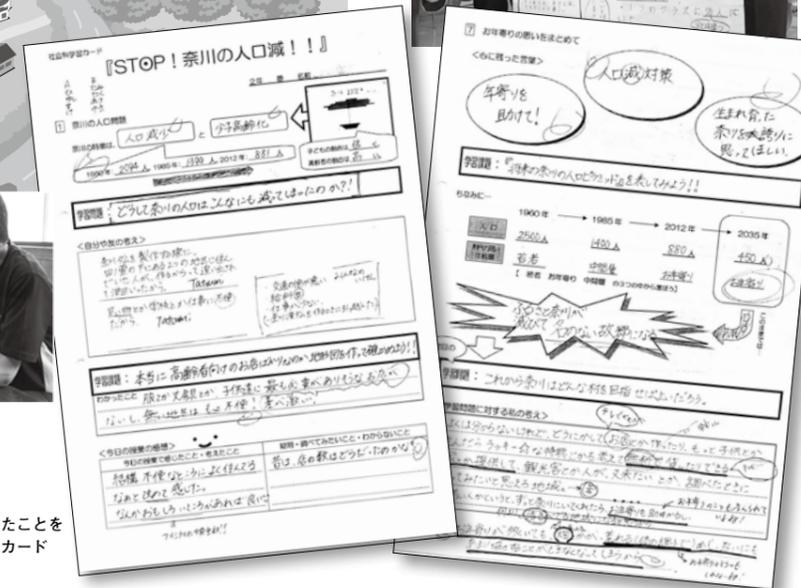
協力：松本市立奈川中学校(松本市)

発行日：平成26年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 総務企画部 地域福祉推進グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/



STOP! 奈川の人口減!!
松本市立奈川中学校 2 学年の学びから



事例の概要

気づいたことや考えたことを
まとめていった学習カード

地域社会の一員として
奈川の将来像を考える

コンビニもない。お店には欲しいものがない。学校の生徒も少なく、高齢の人がとても多い。街までは、カーブの多い道を車で1時間かけて下りていかなくてはならない…。松本市奈川地区はそんな地域です。子どもたちは、中学校を卒業したら高校に通うために地域を出て暮らすことがほぼ確実です。

「何もないから、奈川は好きじゃない」そう思っている生徒たちに、故郷への誇りをもってほしい。2学年担任で社会科を教えている若林史也先生は、世界と日本の人口についての授業に、そんな思いをこめました。人口という切り口で日本全体、世界と比較すると、奈川がどんな地域なのかを感じられるのではないかと。そこから地域を見る視点を育てられないか。そんな願いで「STOP! 奈川の人口減!!」の授業が始まりました。

奈川の人口構成はどう動いてきて、この先はどんなふうに変っていくのか、自分たちで予測データを作りながら考えます。出ていく人、残っている人のそれぞれに、数字だけではわからない地域と未来への思いを聞く訪問調査を行いました。

コンビニがなくても
いいなんて!?

訪問調査では、中学生は温かく迎えられました。「この奈川に帰ってきてくれよ」と言ってくださった人もいます。都会の人を呼び込もうと取り組んでいる人も、伝統の祭りを絶やさないように頑張っている人もいました。また、中学生にとっては大問題の「コンビニがない」ということも、村の人には大きな問題でないこと、むしろ支えあって暮らしている関係こそが大きな財産だという話も聞かせてくれました。一人ひとりが、地域に対して様々

な思いを持っていることを知りました。豊かな自然と伝統があり、支え合う優しい人々がいる地域。そんな地域の良いところを失いたくない…そのために、地域の人々を支えなくてはならないし、支えてくれる人がもっとほしいと痛感しました。

答えは出ない…
でも考えた経験は生きる

人口減少、過疎化は経済・産業構造や行政の仕組みなどの様々な要因が関係する、難しい問題です。すぐに答えが出せるものではありません。けれども、彼らが将来自分の生き方を形にしていくなぎ、ふるさとの存続を真剣に考えた学びが生かされることを先生方は願っています。

そして、「みんなの帰りを奈川で待っているよ」「みんなが地域の宝物なんだ」という地域の方のメッセージ、思いは生徒たちに伝わったのではないのでしょうか。

学習の流れ STOP! 奈川の人口減 !!

1 奈川の問題に迫る

奈川の人口が減少した理由について考える

どうして奈川の人口はこんなに減ってしまったのだろうか？

自分や友達を考え…

- 市街地は買い物便利だから。
- 奈川は高い山に囲まれていて、あるのは家くらい。
- お店が街中に比べて少なすぎる。
- 仕事が少ない(奈川ダムを作ったときに引っ越した)。



山間過疎地 奈川地区の中学生

松本市奈川地区(旧奈川村)は、平成17年の市町村合併で松本市となった山間地区です。奈川中学校は、小学校と併設されており、中学生が15人、小学生が39人、合計54人の子どもたちが、同じ校舎で学んでいます。一つの体育館で、9学年と一緒にドッジボールをして遊んだり、兄弟姉妹のように過ごしています。

奈川中学校の生徒は、中学校を卒業すると、家を出て、下宿や寮、または街中に暮らす親戚の家に住むということになります。奈川の家からは高校に通えないからです。先生方は、卒業後家を離れる子どもたちのために、「自立して生活できるように」ということを大切に考えています。

「STOP! 奈川の人口減 !!」は、中学2年生の8人の生徒たちが取り組んだ社会科の授業です。

ねらい

松本市立奈川中学校2学年担任 若林史也先生

「ここは不便だ」…それだけで終わらない地域へのまなざしを

人口減少は生徒たちにも身近な問題です。現在奈川に中学2年生は8人いますが、小学校低学年は5人に満たない。奈川の学校はどうなっちゃうの？ というのは切実です。

授業では、まずは資料を基に考えました。奈川の人口ピラミッドを描くと、若い年代がごっそり削られた逆ピラミッドになる。何故こんなに人口が減ってしまったんだろう？「奈川が不便だからだ」「お年寄りは不便に感じていないけど若い世代は外に出る。お店もないし」と。本当にそうなのか見に行こうと、地形図を頼りに回ってみました。確かに店がないんです。それはわかっていましたけれど、あらためて確認しました。

でも、本当に生活が不便で奈川を出た人はいたのか。奈川を出た方にビデオで語っていただきました。「市町村合併に伴い松本勤務になり、奈川から通えない。子どもの将来や学校のことを考えて引っ越した」ということでした。

これだけでは、生徒たちの「不便＝暮らせない」という考えを認めただけになってしまう。別の視点として、ムラに暮らすお年寄りの目線でムラを語ってもらいました。そこで生徒たちが驚いたのは、話を聞いた人の中に奈川の悪いところを語る人がいな

2 実際に調査

本当に不便なのか、地形図を使って地域を実際に確かめる

奈川の地域を探検しよう

奈川で暮らしていても生活に困るだけだから買い物ができるようになってしまえば無理はないと思う。

やっぱりお店は少ない。

本当に生活が不便で奈川の外に出て行った人はいるのだろうか？

3 奈川を離れた人の声を聞く

奈川を離れた M さんのビデオ映像から考える

奈川を離れたのは、奈川が不便だからだろうか？

Mさんが離れたわけは……

- 市町村合併で職場が街中に。職場までの距離が遠くなり、冬の運転は必死
- 食品など欲しいものがすぐ買えない、お金をすくにおろせない
- 高校がない。子どもの将来の進路を狭めてしまう。親が近くにいたほうが安心
- でも奈川を愛している
- 獅子舞には毎年参加



本単元の主目標

奈川の人口問題について、資料や地域調査から様々な立場の方の思いや自分たちなりに考えた奈川の将来像を検討することを通して、市町村規模の地域の調査を行う際の方法やまとめ方の基礎を身につけるとともに、多面的な見方や考え方、地域社会の一員として参画していこうとする態度を養う。

かったことです。不便だけど生活できているし、土地もあるし、財産もあるし、引っ越しをするデメリットのほうが大きいというお話でした。そして、皆さんに奈川を助けてほしいと言われました。地域を守ってほしいとか、伝統を守ってほしいとか、人口が減らないために人を呼び込むには何かメリットがないとダメなんじゃないのという考えも語っていただきました。生徒たちに期待しているという思いが強く感じられました。

奈川のこれから、自分のこれから

インタビュー後の学習カードに生徒たちは「奈川を大切にしないといけないと思った」と書いてきました。私は「そういう自分はどうする?」と思いながらそれを読んでいました。「いずれ戻ってくるためにムラはあってほしい」、「でもここに住むかと言われるとそうじゃない。奈川の人々のいろいろな思いを受け止め、自分たちなりの思いを持って、最後に「これからの奈川はどんなムラを目指していけばいいか」考えてみました。

生徒たちは理想を語ろうとするので、『奈川を若者が支えていく』って言うけど、君たちは多分出て行っちゃうでしょ。いっそ、定年を迎えた世代の人たちが主体のムラを形成して貰えれば、君たちが帰って来られるところは残る。そういう年代の人のた

4 お年寄りの思いを考える

不便にもかかわらず、奈川を離れないのは？

昔から奈川に住んでいるお年寄りはどう思っているのか？

予想される考え…

- 今更引っ越すのも面倒。
- 先祖代々の土地に思い入れがある。
- 子どもに頼っている。
- 奈川が好きだから。

本当にそうなのだろうか？聞き取り調査の準備

- 調査のポイント
- ・相手の目を見る・うなずきながら聞く
- ・会話を途切らせない
- ウェビングマップで聞きたいことを整理

5 お年寄りの思いを聞く

4班に分かれて、聞き取り調査をするお年寄りの思いとはなんだろう？

- 奈川の人口問題をどう思うか？
- なぜ奈川を離れないのか？



予想していた答えとは違う!?

6 お年寄りの思いをまとめる

印象に残ったお年寄りの言葉とは？

聞き取り調査をした内容を模造紙にまとめる

「大切にしてきた地域だから、奈川をずっと残してほしい」

「不便でも奈川の良さがあるから、一人でも多く奈川にいてほしい」

「生まれ育った奈川を誇りに思っています」

「年寄りを助けて!」

あらためて見直す奈川の良さ

自然の豊かさ、獅子舞などの誇れる伝統文化、人のあたたかさなど

「将来の奈川の人口ピラミッド」を表してみよう!

このままでは奈川がなくなってしまう!

7 奈川の将来を考える

奈川はどんなムラを目指せばよいのだろうか？

お年寄りと若者のどちらを優先すべきなのだろうか？どちらを目指せば良いか、考える

なぜそちらの立場に立つと奈川の人口が減少しないのか？

話し合ってみよう

- 「若者向けのムラ」を目指せば人口が増えていく。結婚して子どもを産める環境を作るほうがいい。
- 互いに助け合うムラだったら若者もなくてはならない存在。
- 奈川にはクラインガルテンがある。そこで安心して老後暮らしをできるムラをPRしていったほうが奈川の人口が減らずに済むし、お年寄りのためになる。
- これまで奈川を守ってきたお年寄りも大切にすべき。

※クラインガルテン……滞在型市民農園。都市の人が長期滞在中に農作業を楽しんだり、地元の人と交流したりできます。奈川には3つのクラインガルテンがあります。

- 若者だけでもお年寄りだけでもできないことがある。どちらも大切。
- 若者がお年寄りを守って支えてくれるムラが大事だと改めて感じた。



「STOP! 奈川の人口減 !!」は全11時間の単元。「話し合い」の時間は校内の社会科研究授業としても行われました。

8 奈川存続のための政策を提案する

オリジナルの政策案を考え、提案しよう

- 仕事を増やすことで若者も来る。
- 畑や家を無料、または安く貸し出して住んでもらえるようにする。
- お店の種類を増やす。
- 子どもを産んだら特典など優遇する政策。
- 観光客がまた来たいと思えるスポットを増やす。

